

## アメリカ研究者の同行通訳 (2015. 5.27)

2012 年に来日した米国東カロライナ大学のムカルジ准教授が 5 月に再来日しました。ムカルジ准教授は、継続してあすと長町の仮設住宅の住人の暮らしぶりやその後の生活を調査しています。

震災直後に 400 人以上が暮らしていた仮設住宅の住人は自宅を再建したり、公営住宅に入居したり、集団移転を計画するなど生活の再スタートを始めています。

以前インタビューさせて頂いた飯塚元自治会長や鈴木元会長補佐と再会を果たし、前回の調査から 3 年たった地域の復興の様子や課題を熱心にインタビューしていました。(担当：小笠原)



前回の調査



今回は 3 年ぶりの訪問



飯塚元自治会長にインタビュー



現在のあすと長町仮設住宅



鈴木元会長補佐とも公営住宅で喜びの再会

関係者の皆さま、ご協力ありがとうございました